

本町田むかいかみの緑地にある湧水（ゆうすい）について

この緑地には、湧水、いわゆるわき水があります。身近な湧水について考えてみましょう。

★どこで湧いているの？

区域の南西部、ちょうど本町田なかまち広場の斜面の下のあたりです。湧水地点は私有地のため、立ち入ることができませんが、流れた水は途中から町田市所管の水路に入り見ることが出来ます。

★どこからくるの？

湧水は地下水が地表に出てくる場所ですが、地下水の流れは複雑でどこから流れてくるかははっきりとは分かっていません。この湧水の谷の集水域（降った雨が集まる範囲）としては、西は鎌倉街道から南は町田街道、東は町田高校あたりまで、広く中町四丁目あたりかと思われそうですが、常に一定量が湧いているので、そこに降った雨だけとは考えにくいです。単に雨水集水域だけではなく、サイフォン効果などで遠くの山地に染み込んだ地下水が出てきているという説もあります。

★どこへいくの？

区域の東端部で、雨水排水管に入り、道路の下を流れていきます。坂道の途中の雨水のマンホールでは、晴天時でも常に湧水が流れる音を確認できます。そして道路の下を通過して恩田川に流れていき、下流で鶴見川と合流し、東京湾に流れ込みます。この湧水は恩田川の源流のひとつなのです。

★町田市は源流都市

町田市は、東京湾に流れ込む鶴見川・恩田川の源流であり、相模湾に流れ込む境川の源流でもあり、まさに源流都市といえます。源流というと山奥のほうをイメージされる方が多いのですが、町田ではすぐ身近にあるのです。そして町田市は、これまでも源流である谷戸頭の湧水とその周辺の斜面林を、芹ヶ谷公園、忠生公園、滝の沢源流公園などの公園にしています。

★湧水の昔話

付近の丘の上では、縄文時代などの遺跡が見つかっています。水は人の生活になくってはならないものですし、谷戸の湿地では稲作もできたことでしょう。ここは、昔から人が住みやすい場所だったと考えられます。また、近隣に昔から住む方によると、本町田団地ができる昭和40年位より前は、この湧水を利用した田んぼが広

がり、ホタルも飛んでいて、よく湧水地でカニなどをつかまえて遊んでいたということです。

★多くの“生きもの”のすみか

湧水は多くの生きものに必要な「水」と「水辺環境」を提供します。魚やサワガニなど水にすむ生きものはもちろん、カエルなどの両生類、トンボなどの昆虫も水がないと住み続けられません。また、鳥やタヌキなどの水飲み場や水浴び場になります。また、水辺の湿った所にしか生えない希少種とされる植物も多いです。生きものの一部は大雨時には下流に流され、恩田川への多様な種の供給源にもなっていることでしょう。

★湧水の意義

以上のように、湧水は人々の飲み水や生活用水として太古の昔から利用されてきたほか、水が湧き出る湧水地の様子は人々に癒しをあたえパワースポットなど神秘的な感じさえも起こさせます。そして、湧水とその流れは、水を必要とする多くの生きものすみかとしてとても重要なものです。今後も湧水があれば、災害時の生活用水や、多くの生きものすみか、自然環境や水循環の教育の場として、重要な役割を果たすことでしょう。

★宅地開発と湧水

この緑地には宅地開発計画があり、平成 25 年 4 月 20 日の近隣説明会によると、この湧水は、単に埋められて、土に浸透させるかたちでの処理になるということです。埋められれば当然、亡くなってしまい、水辺の生きものも住めなくなります。また、埋め立てて造成しても地下水は出てくるので、適切な排水処理をしないと将来的に地盤陥没や地震時の液状化などの恐れが考えられます。

★町田市役所さん頑張ってください！

町田市は、市内の緑の保全などの、緑に関する総合的な計画である「町田市緑の基本計画 2020」において、この本町田むかいかみの自然地を、緑の保全上特に重要な緑地である「保全候補地」に位置づけていることから、開発事業を契機に、この湧水と緑地の積極的な保全に取り組んでいただきたいです。

平成 25 年 4 月 21 日 本町田むかいかみ緑と湧水の会

本町田むかいかみ

検索

Eメール：honmachida@gmail.com